

経営比較分析表（令和元年度決算）

静岡県 小山町

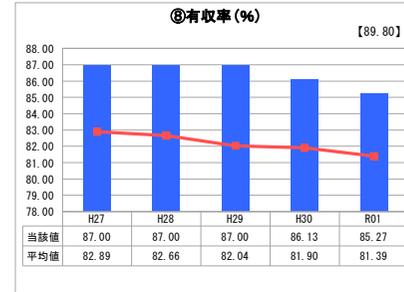
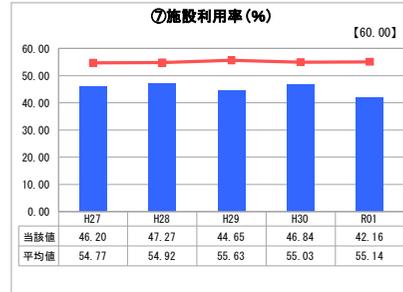
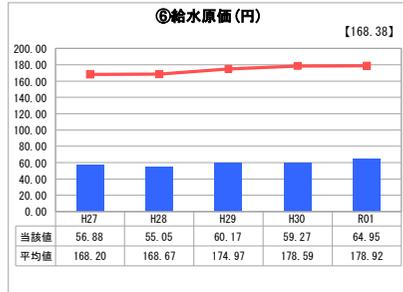
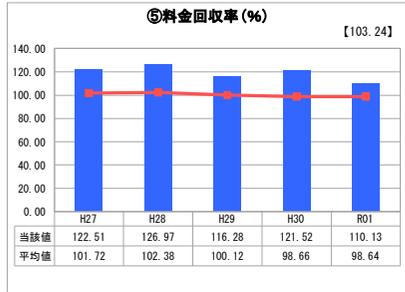
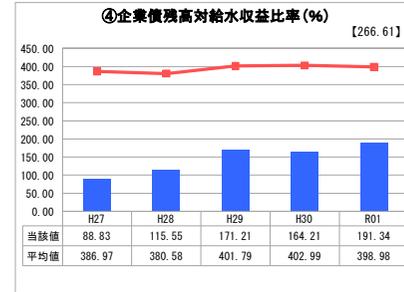
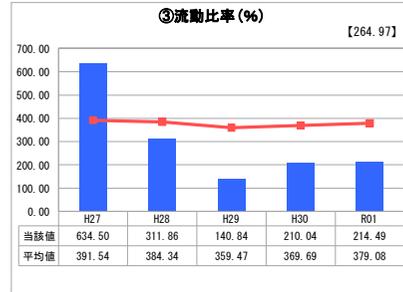
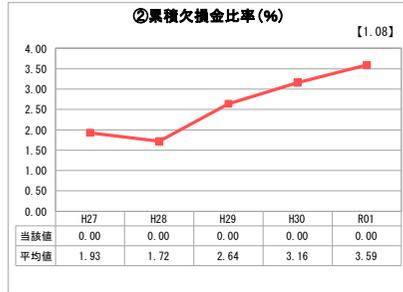
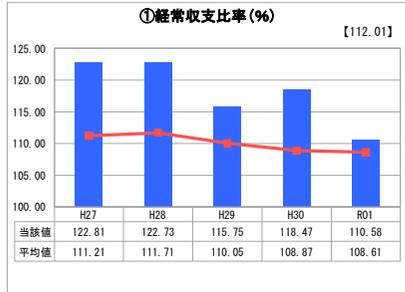
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.54	97.92	1,130	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,306	135.74	134.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,746	27.39	647.90

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町水道事業は綺麗な湧水及び井戸水に恵まれ、浄水施設の必要もないことから、⑥給水原価が類似団体平均の3分の1強となっています。また平成26年度に水道料金の改定を行い、①経常収支比率及び⑤料金回収率が改善し、類似団体の平均も上回っています。しかし今後の見込みとして、平成30年度に完成した工業団地にある新しい配水施設の維持管理費や減価償却費等、経常経費の増加により⑥給水原価の上昇、①経常収支比率・⑤料金回収率の悪化が予想されます。

また、上記施設築造にあたり、多額の自己資金（借金含む）を充当しました。その結果、手許資金が減少したため、平成28年度決算以降③流動比率及び④企業債残高対給水収益比率がそれまでに比べ悪化しています。

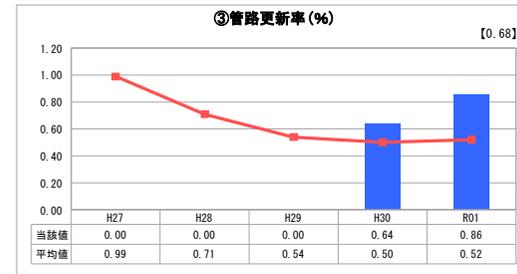
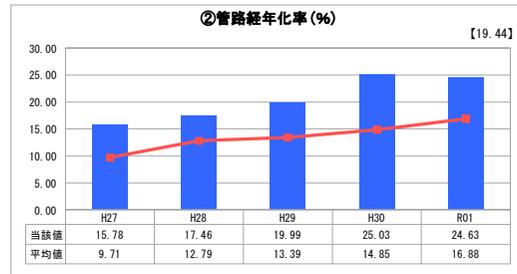
今後は老朽管の布設替えや耐震化対策に多くの投資的経費が掛かることや、人口減少による水需要の減少に伴う収益の悪化が予想されます。したがって、広域連携を含めた施設の統廃合や性能の合理化を検討し効率的かつ安全に水を供給していきます。

2. 老朽化の状況について

本町では昭和30年代から水道事業を開始し、耐用年数を過ぎた老朽管が増えてきているため、事業類似団体平均及び全国平均と比べ、②管路経年率が高くなっています。また、工業団地の配水場整備を行っていたため、平成27～29年度までは老朽管の更新が行えませんでした。しかしながら、平成30年度と令和元年度は国の交付金を充当し、老朽管の更新を進めています。

今後アセットマネジメント計画に基づいて、現有資産の更新需要と長期的な財政状況を基に、財源を確保しながら施設整備（老朽管更新や耐震化）を計画的に行っていきます。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後上記のとおり、資産の老朽化、施設機能の適正化や水需要の減少といった課題は多くあります。本町水道事業としては、安定的に事業を継続していくことを主眼に事業運営をしていきます。

そのために、経常経費の見直し・補助金や適正な料金収入等財源の確保といった財政的試算と、施設利用率向上を図るため、効率的に施設を活用するダウンサイジング・スペックダウンの検討や計画的な施設等の更新といった投資的試算のバランスを図っていきます。